



未来へ 2006～

阿部 治*

あけましておめでとうございます。本年もエレクトロニクス実装学会をよろしく申し上げます。

文部科学省の中央教育審議会の答申によりますと、少子高齢化が進む中で高等教育への進学者が減少し、来年は大学・短大の収容人数よりも少なくなるそうです。また、ITの発展等に伴って履修形態が多様化し、大学の国際展開が加速。さまざまな変化を背景に高等教育がすべての人へ開かれ、ユニバーサル・アクセスの時代がやって来ます。競争的な環境の中で高等教育機関が個性や特色を一層明確にすることが求められてきます。同時に、高等教育進学年齢の人口が低位安定する中で、社会人学生・外国人留学生やパートタイム学生の大幅増加が予想され、「進学率」の指標としての有用性は減少し、18歳人口の増減のみに依拠した高等教育政策の手法は終焉を迎え、「高等教育計画の策定と各種規制」から「将来像の提示と政策誘導」時代へと移行していきます。

自分は高等教育に27年携わって痛感していることがあります。近年、入学者の基礎学力が年々低下していることです。軟弱な基礎の上に塔を建造すると、ピサの斜塔のように傾いてしまいます。ゆとり教育の弊害により、ゆらいだ基礎の上に専門教育を導入しても身に付くわけが無く、特色ある専門知識修得者を輩出できないことにわれわれは苦勞しています。団塊の世代の方々が定年を迎え、技術を持った人たちが会社組織から去って行く。慌てて若い人たちを補充しようとしても、入社するのはこの基礎の無い世代です。

昨夏、8日間ほど軽井沢の別荘でテレビも新聞も電話もない、NET環境だけの生活の中で危機感を感じながらじっと考えておりました。「自分の勤める職場存続のためにはどのような特色が必要か」「日本が生き延びるには何を売りにしたら良い」「日本の高度成長の過程」日本人はとても勤勞かつ勤勉です。また優れた技術力で他の国と競争して来ました。でも勤勞で勤勉なのは今これを読んでいるあなたであって、入社する者たちは決して勤勉ではない。基礎学力も根性もない、確かな技術力を発揮する要因はなにも持ち合わせていないのです。

今、技術力を若い世代に引き継ぐことや新技術を創り出すことが求められています。本会は技術という言葉を全面に出している特色ある学会です。さまざまな技術を融合して新技術を創り出す能力のある人々によって構成され、運用されております。他学会と差別化が図られている本学会員の努力で発展を遂げられないでしょうか。本学会がさらに発展し、日本の技術力を世界に発信していく一助となれるよう、皆さんと努力していきたいと思っております。

本年が読者の方々にとって良い1年になることをお祈り申し上げます。